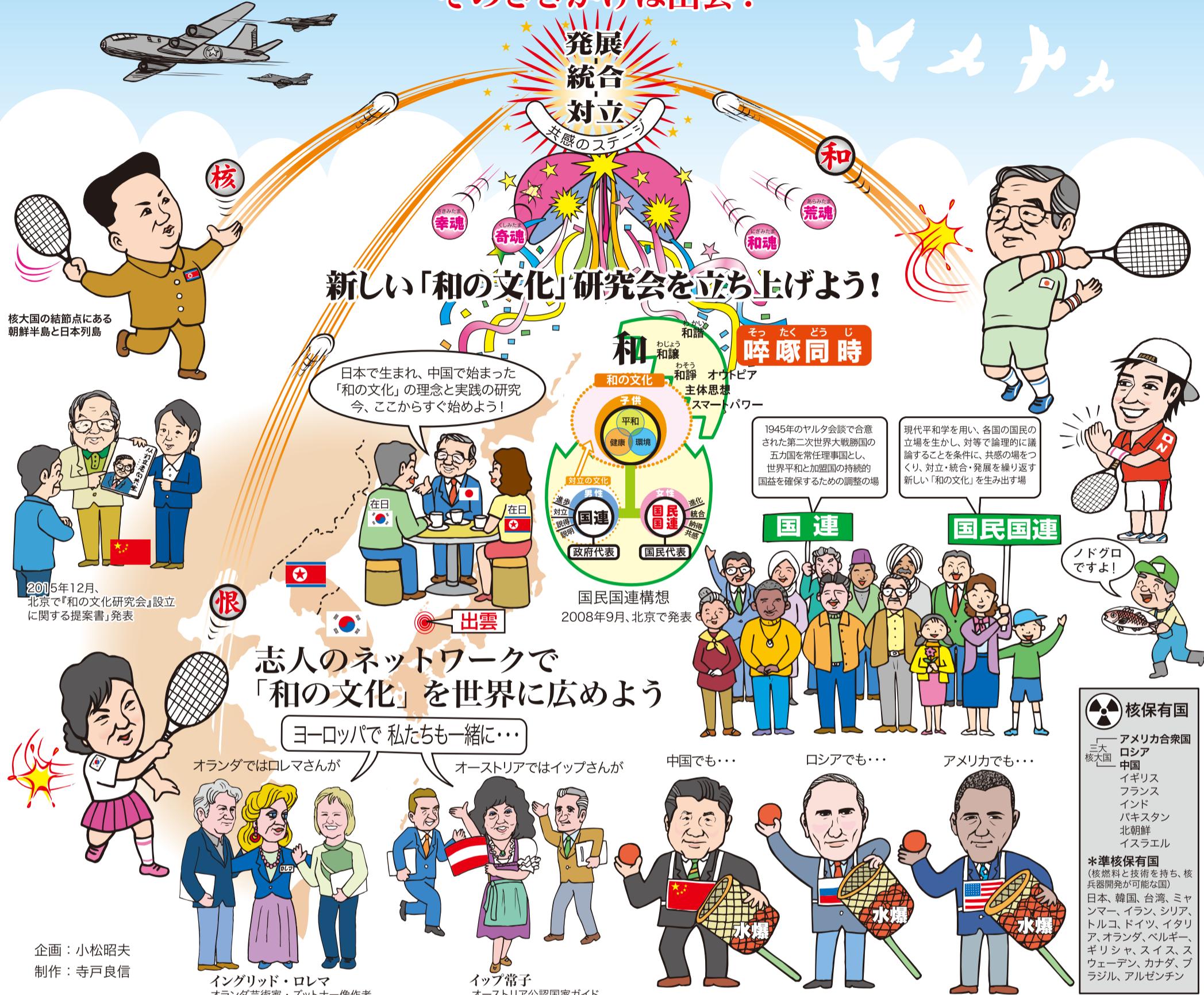


人類の戦争を終わらせ、恒久平和を創る使命を持った日本

— そのさきがけは出雲！ —

企画：小松昭夫
制作：寺戸良信核大国の結節点にある
朝鮮半島と日本列島

核保有を宣言した国で、核を放棄した国はありません。日本、韓国が米国「核の傘」の中にいる以上、北朝鮮が世界で初めて核を放棄するには、日本・韓国とともに人類の歴史に対して責任を果たすという、シナリオが必要です。

どこの国もそうですが、核大国である中国、露国、米国も、国内に大きな問題を抱えています。国内の対立が臨界点を超れば、核は最も危険な存在になります。この可能性を回避するためにも、朝鮮半島と日本列島の非核化は、核大国、保有国に、比類なき影響を与え、紛争地帯に希望と勇気を提供できるはずです。これをもとに平和構築のノウハウを確立することができれば、環日本海圏は、世界から最も期待される地域になるはずです。これこそが戦後、繁栄を享受してきた日本と韓国の果たすべき役割ではないでしょうか。 · · · · ·

小松昭夫 一般財団法人人間自然科学研究所理事長
小松電機産業株式会社 代表取締役

詳しくは書籍『朝鮮半島と日本列島の使命—3大核大国の結節点から和の時代が始まる』人間自然科学研究所 発行(2011年2月22日第1版第1刷、2014年11月23日第4版第1刷・増刷計5回)を参照ください。
次のURL、またはQRコードで、電子書籍データがダウンロードできます。
URL: <http://www.hns.gr.jp/books/chousenhanntouto.html>

Korean Peninsula and Japanese Archipelago
Where Nuclear Powers Meet

The Korean Peninsula and the Japanese Archipelago are just located where the three nuclear big powers, the U.S., Russia and China meet. We do not know any country which has abolished nuclear weapons after declaring that it succeeded in obtaining such weapons. As long as Japan and ROK are protected by the American nuclear umbrella, we really have to prepare a special scenario for DPRK to abandon their deadly weapons. It should be a scenario to illustrate a clear road for us, Japan, ROK and DPRK, to admit and take full responsibilities for the history of man.

The three nuclear big powers, China, Russia and America, have a lot of domestic problems like all the other countries in the world. If any of such problems should go beyond the critical point, the nuclear weapons they hold would be most dangerous things. Making the Korean Peninsula and the Japanese Archipelago a nuclear-free zone should provide all the nuclear powers, whether they are big or small, and all the disputing areas of the world with an incomparable example of hope and encouragement. This would also provide us a chance to develop and establish sure ways to build peace in the whole area of Japan Sea/East Sea. Then the other countries in the world would surely like follow our suit. I believe that this should be the No.1 project for Japan and ROK to cope with who have been enjoying thriving economy after the World War II.

(A partial quotation from The Shimane Daily Newspaper, Feb.12, 2009)

Akio Komatsu President Komatsu Electric Industries Co., Ltd.
Human, Nature & Science Institute Foundation

本紙1面のイメージ・イラストの最上段に、「人類の戦争を終わらせ、恒久平和を創る使命を持った日本——そのさきがけは出雲！」とあります。

第2次世界大戦の敗戦を「終戦」と言ったことを、日本の「人類の戦争を終わらせる」使命の自覚として、未来に向かって、積極的にとらえなおそうという提言です。それは、2度にわたる大戦の惨禍を体験した人類の叡智の結晶ともいえる日本国憲法の「平和主義」と重なります。

「さきがけ」とは、他に先んじて動くこと、物事がそこから始まる」と意味します。では、「なぜ、出雲から」なのでしょうか?



「和」の文化の発祥

日本列島は黒潮（日本海流）と対馬海流のふたつの暖流に囲まれています。このため、西日本では高温多湿、雨量も多く、落葉樹を含む多種類の樹木が生育し、とくに對馬海流の流れ込む山陰・北陸地方の日本海側には巨木が茂っています。火山、地震、雷など厳しい自然環境がある一方、山には落葉や火山灰がもたらす栄養豊富な表土があります。古来、魚介類、鳥類、小動物、山菜などの食料も豊富でした。

岡山県蒜山をはじめとする中国地方の山間地域は、太古より大陸半島から北方系民族、そして黒潮に乗った南方系民族が移り住み、多文化が融合した独自の一大文化圏が形成された地域と推測されます。

「地政学」を広辞苑で引くと「政治現象と地理的条件との関係を研究する学問」とあります。「国際政治のパワー関係を主に地理的にとらえて考える学問的な視点」と解説する人もいます。歴史学、政治学、地理学、経済学、軍事学に加え、文化、文明、宗教、哲学などの様々な見地から研究が行われます。グローバル化が進んだ今日、国際政治における将来の日本の外交や経済を考える際に不可欠な視点と言えるでしょう。

では、日本、そして出雲は、地政学的にどのように位置づけられるでしょうか。

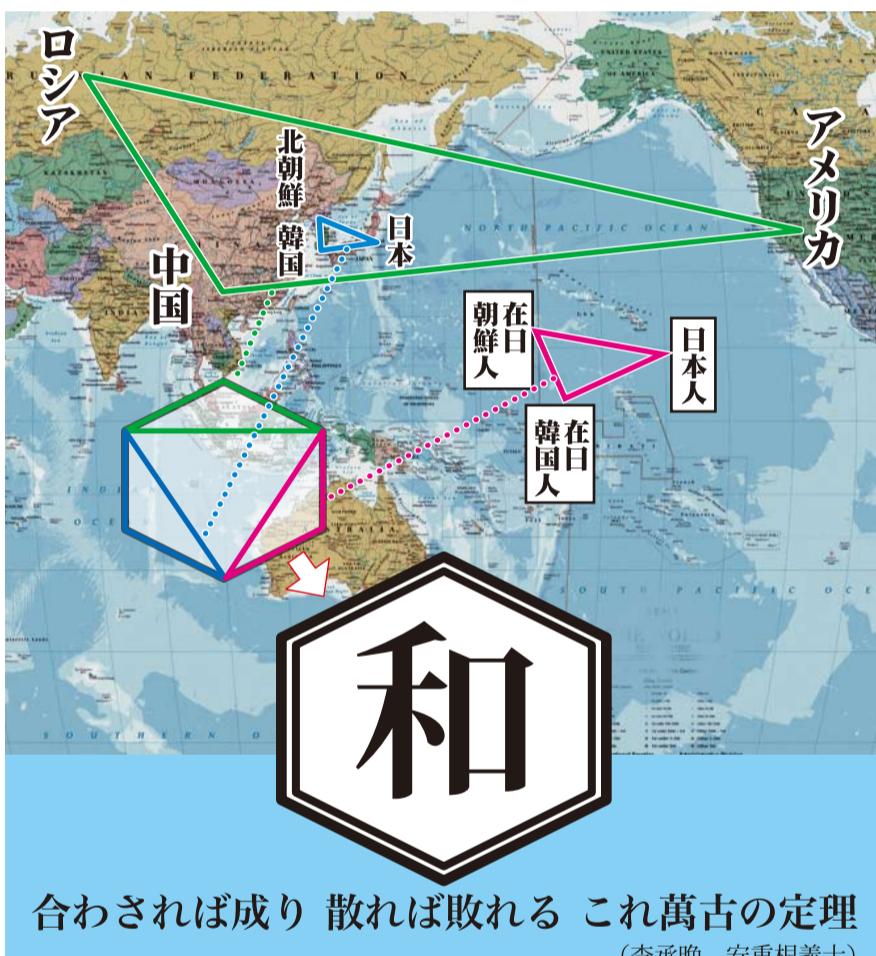
「なぜ、出雲から？」と、日本列島には、南から稻作がもたらされ、北からは中国・朝鮮半島を経由してタタラ製鉄が伝わりました。中国山地一帯は豊富で良質な砂鉄、繁茂する森林、急流で水量豊かな河といった条件がとつており、日本列島におけるタタラ製鉄の中心的な生産地でした。それは、古代の出雲国の中心地と仮説です。

日本列島には、南から稻作がもたらされ、北からは中国・朝鮮半島を経由してタタラ製鉄が伝わりました。中国山地一帯は豊富で良質な砂鉄、繁茂する森林、急流で水量豊かな河といった条件がとつており、日本列島におけるタタラ製鉄の中心的な生産地でした。それは、古代の出雲国の中心地と仮説です。

松江市八雲町の熊野大社の前宮司で出雲大社教の千家達彦前管長（故人）が、聖徳太子の「和をもつて貴しとなす」から「和」、「國譲り」であります。松江市八雲町の熊野大社の前宮司で出雲大社教の千家達彦前管長（故人）が、聖徳太子の「和をもつて貴しとなす」から「和」、「國譲り」であります。

「和」を荒立てずにうまく調和していくこと」という一般的な理解に對して、「共感の舞台の上で、対立・統合・発展が繰り返される過程であり、静止状態ではなく、議論百出のダイナミックな動きそのもの、中庸の生き方から生まれる拡大する螺旋（らせん）運動」と定義しています。

松江市八雲町の熊野大社の前宮司で出雲大社教の千家達彦前管長（故人）が、聖徳太子の「和をもつて貴しとなす」から「和」、「國譲り」であります。松江市八雲町の熊野大社の前宮司で出雲大社教の千家達彦前管長（故人）が、聖徳太子の「和をもつて貴しとなす」から「和」、「國譲り」であります。



地球をまるごと 引っ張り上げる

そこで、古代出雲は関東、甲信越、中部、大和、紀伊、四国、北九州に勢力の及ぶ、巨大な「クニ」だったという説があります。古事記等の神話の3分の1は出雲神話であり、全国にある神社の8割には出雲系の神が祭られていることにも、影響力の大きさが表れています。

その巨大な古代出雲国の人々は、戦わずして、大和に「国譲り」をしたと神話は伝えていました。小松理事長はこれを「和」に至る手段。目的の具現化のために、相手を尊重し、何を譲つて、何を守るかの判断力」と説明しています。

小松理事長はこの「和」について、

では、現代の出雲は、地政学的にどのように位置づけられるでしょうか。

（交易場 修）

岩より水

Not the Rock, but the Water

女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナー胸像

の作者であるオランダの芸術家で、平和活動家でもあるイングリッド・ロレマさんに、小松理事長があて

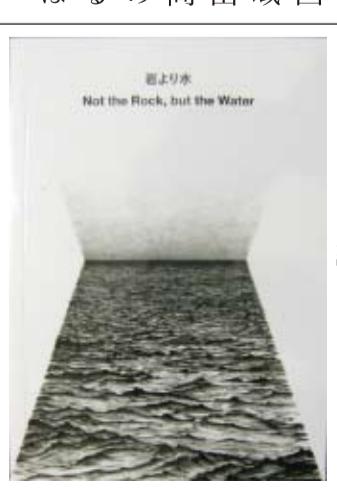
た「『和』の文化創造をめざして」と題する書簡。オランダの哲学者フイーリックス・ビラヌーバさんによる、河川的精神・海洋的精神といつた視点から、小松理事長の理念と活動を「分析」、紹介した。

本書の表題となっている「岩より水」という論文。その他、書籍『悠久の河』紹介、写真などが収められています。A6判72ページの瀟洒な本です。

世界に目を転じると、核拡散の状況下、人類は運命を共にする「宇宙船地球号」の乗組員同士と言えます。世界規模で、古代人が大海原を渡った時と同じ危機に直面し、脳が覚醒する状況が生まれていると考えることができます。

小松理事長は、こう主張します。「核拡散、スマートホン、クラウド・コンピューティング、国際分業が進んだ今、我々が動けば、想像を超えるスピードで人々の意識が変わり、新しい『和』の文化が生まれると確信しています。核大国に囲まれた日本、韓国、朝鮮の3カ国が、アメリカ、ロシア、中国の積極的な賛同と協力を得て、非核地帯となり、核保有国の段階的な核削減を促し、この地域から世界恒久平和のモデルを生み出す使命があると考えています。難問が凝縮している出雲が、『和譲』の精神を生かし、そのさきがけとなることが、現代の地政学的な役割ではないでしょうか。

本紙第10号の「悠久の河」意宇川紀行①で、ヤツカミズオミズヌノミコトが朝鮮半島と隱岐の島、越（北陸）から4つの土地を引いてきて島根半島を作ったという神話を紹介しました。この「国引き神話」にちなみば、現代の出雲には、地理をまるごと引っ張り上げ、人類を新たな段階に進化させる役割が求められていると言えるでしょう。



本の案内